

平成26年度 鳥取県議会台湾訪問団 報告書

[平成26年10月21日(火)～24日(金)]



鳥取県議会

1 訪問日程及び訪問先

平成26年10月21日（火）～24日（金）

中華民国台北市、台中市、桃園県

※詳細は「4 日程表」のとおり

2 訪問団メンバー

団長 小谷 茂 議員

副団長 伊藤 保 議員

秘書長 森 雅 幹 議員

長谷川 稔 議員

<随行> 議会事務局 調査課

課長補佐 若松 理恵

議事・法務政策課

係長 伊藤 康司

文化観光スポーツ局 観光戦略課

国際交流員 洪佳琪（ホン チアチー）

3 所感及び県政に対する提言

今回の県議会による台湾訪問団は、台湾からの観光誘客に向けての現地動向と課題、地域間、学校間交流の現状や今後の可能性を探るとともに、農業分野における状況などについて調査することを目的に台北市及び本県と交流を続ける台中市等を訪問した。

日本と台湾は日中国交正常化により国家間の正式な国交はないものの、緊密な人的往来と文化交流、そして重要な経済パートナーとして良好な関係を維持している。本県においては、1997年に梨の穂木輸出をきっかけとし、2000年に知事が訪問して以来、農業、観光、スポーツ、文化交流など各分野において、民間交流も含め、幅広い分野で台湾、特に台中市との交流が続いているところである。

始めに、観光誘客についての現地動向と課題について具体的に述べたい。

まず、日本と台湾の交流を維持する実務機関として重要な役割を担っている中華民国側の「亜東関係協会」、そして日本側の「公益財団法人交流協会」によると、昨年日本と台湾の人的往来は、日本人訪台者が142万人と前年に比べ0.8%減少しているものの、台湾人訪日者は前年比50.8%増の221万人となっており、今年は日台あわせて400万人の往来を目標とし、その突破が確実な状況となっているとのことである。本県への台湾からの入り込み客数も2011年の2,820人に対し、2012年は8,400人とまんが王国ととりのPRなどが功を奏し、着実に増加している。また、2011年に日本と台湾がオープンスカイ協定を締結したことにより、今年7月実績で日本と台湾の間には19路線、週あたりすると486便の定期航空路線が就航しており、これは協定締結前の2倍にあたるとのことであり、このような追い風の中、今が台湾からの誘客のための観光政策をさらに推し進める絶好の好機であることを実感した。

訪日される台湾人の滞在期間は平均6泊と非常に長く、自然体験を好まれるとの傾向がある。長期間の滞在となれば、本県だけでの滞在には限界があると思われるが、山陰海岸ジオパーク、砂丘を利用した自然体験、温泉、食、スポーツ、文化、お祭りなどそれぞれの特色を打ち出すことが効果的であるとのアドバイスがあり、今後とも情報交換等、連携を密にしながら進めていくべきであると感じた。さらに、女性の訪日客が過半数を占め、中でも20～30代の女性が多く、買い物需要も高いとのことであり、今年10月に外国人旅行者向け消費税免税制度が改正され、免税店での免税対象品目すべての品目に拡大されるとともに、手続きも簡素化されていることから、

これまで以上に県内事業者への免税店開設の支援及び旅行社への情報発信を行っていただく必要性を感じた。

また、台北市内の旅行社が加盟している台北市旅行商業同業公会では、台湾からの旅行者は長時間の移動を嫌うため、飛行機や鉄道、バスなどの乗り継ぎではなく、すぐに目的の観光地に行くことのできる直行便が就航していることが望ましい。鳥取には2回訪れ、良いところだと感じたが、アクセスが不便でPR不足な印象を受けたとのお話があった。

県では、来年3月に開催される鳥取マラソンへの参加促進、ツール・ド・大山を初めとしたサイクリングコースの紹介、日本の観光・物産展への出展、さらには中国地方5県で連携し、知事もトッププロモーションを行った中国地方インバウンドフォーラムの開催など、台湾における観光PRを集中的に行われているが、チャーター便の増便と県のさらに積極的、継続的な情報発信の必要性を痛感した。

本県へは今春、世界的自転車メーカー・ジャイアントの関連会社であるジャイアント旅行社がサイクリングツアーを企画されている。実際にツアーに参加したジャイアント社員から感想を伺ったところ、鳥取は自然豊かで、食べ物も美味しく、親切な対応でとても素晴らしかったと、良い経験になったので今後も鳥取へのサイクリングツアーをPRしていきたい。台湾のサイクリングをする方たちは、ただサイクリングをするだけでなく、景色や食事なども重要であり、鳥取県の雄大な自然と美味しい食べ物はぴったりだが、アクセス面、ハード面において不便な点があったとのことであり、具体的に以下について知事に提言すべきと考える。

- ① 先月ジャパンエコトラックに認定されたルートのうち、県が整備する米子市・皆生温泉と境港市・夢みなとタワーを結ぶサイクリングロードを早期の整備
- ② 米子鬼太郎空港を活用した利便性のよいアクセス整備と、それに伴う利用者ニーズを考慮した荷物検査装置等の整備
- ③ 盛んになっているインターネットやスマートフォンを活用した情報収集や情報発信に対応したWi-Fi環境の整備

次に地域間、学校間交流について述べたい。今回訪問した国立陽明高級中学（日本の高等学校に相当する）は、今年で創立22年を迎え、各学年20クラス、全部で60クラスあり、現在の生徒数は2,511人と大規模校で、学力向上、IT設備などの学校施設の充実等を図っている。また、グローバル教育にも力を入れており、2008年以降、米子東高等学校や倉吉農業高等学校、倉吉総合産業高等学校など、本県の多くの高等学校と積極的に交流されている。そして今年2月には、鳥取県内の高等学校が台湾の学校と初めてとなる姉妹校協定を米子東高校と締結され、今後もより一層、学校間交流を展開していきたいとお話があった。

実際に米子東高等学校の生徒は、異文化を肌で感じ、理解し、自国の文化・言語の魅力を再認識し、陽明高級中学の生徒とのコミュニケーションはすべて英語で行うことから、英語でのコミュニケーション力の向上に力を入れ始めており、この交流により様々な良い影響が出ていることを報告した。互いの文化・歴史などの理解を深めるほかにも、グローバルな人材育成に役立っており、議会としても、次世代を担う若者たちの交流を積極的に支援していく必要がある。

また、桃園県政府教育局の呉局長からは、桃園県は桃園国際空港が所在し、台湾の出入口となっていることから、国際交流を積極的に取り入れるべきであると考えており、今後は高等学校だけでなく、小中学校との交流も盛んに進めていきたいとの話があったので、議会としても支援していきたい。

次に農業交流の状況と今後の推進方策について述べたい。

鳥取県から梨の穂木を輸出して、交流が20年近く続いている石岡区農会は9月末に本県へ来県され、農林水産部及び全農とつとりに、穂木取り専用モデル園や新品種の穂木輸出について要請をされているところである。今回の訪問でも、再度、同様の要請を受けたところである。まず、①本県の新品種である新甘泉・秋甘泉の穂木の輸出に関しては、少量のテスト輸出でもお願いしたいとの話があったが、これら新品種の穂木は鳥取県外にも出していない状況であり、国外に出すことは出来ないとはっきりと回答をした。②可能であれば、廃園を全農や県が買い取って、梨の輸出用穂木の専用の採取園にして欲しいとの要望に関しては、現在穂木を輸出している豊水・新興がまとまった園が少ないので難しいとの回答をした。逆に訪問団からは、穂木の確保について要望に応えられるよう、全農・梨生産者に働きかけることを約束し、また穂木の数量を確保するために、現在の穂木の規格の基準を下げてみてはどうか等の提案を行ったところである。

本県でも収益性の高い新品種への転換を推進しているなか、新品種の問題はとてもデリケートな話である。しかし、穂木輸出は県内農家にとってもメリットがあることなので、真摯に対応し理解を深め今後も友好関係を維持していくことが大切であると感じた。

最後に、今回初めて訪れたジャイアント本社工場をはじめ、台中市政府、選挙前であるにも係わらず対応して下さった台中市議会、また、長年交流を続けている国立陽明高級中学、石岡区農会など、快く訪問を受け入れ、熱烈な歓迎をしていただいたことに感謝したい。これは、これまで培ってきた日本と台湾の絆の深さと、協力関係が築かれてきた成果と言えよう。

議会としても、引き続き、人的交流、教育や農業分野での親密な協力関係を維持していくとともに、特に近年の航空便自由化に伴う台湾からの訪日者の大幅な増加と、サイクリングツアーが実現されたことで、より具体的に手応えを感じられる観光交流については、積極的に推し進めていくべきと考える。

今後、今回の台湾訪問から得た成果をもとに、情報発信や施策提言を行い、日台間のさらなる友好と、お互いの文化、交流、経済の発展を願い所感とする。

4 日程表

月 日	日 程	移 動	宿 泊
10月21日 (火)	7:05 鳥取空港→羽田空港 7:15 米子鬼太郎空港→羽田空港 10:05 羽田空港→台北松山空港 (日本との時差-1時間) 14:00 ・公益財団法人交流協会台北事務所 表敬 18:30 ・台湾政府外交部歓迎夕食会	ANA292 ANA382 NH1185 台北市	台北市内
10月22日 (水)	8:00 台湾高速鉄道により台中市へ移動 10:00 ・石岡区農会 調査 12:00 ・石岡区公所及び石岡区農会歓迎昼食会 14:00 ・台中市政府 表敬 15:30 ・台中市議会 表敬 18:30 ・台中市議会歓迎夕食会	台中市 借上バス	台中市内
10月23日 (木)	9:00 ・ジャイアント本社工場 調査 11:40 台湾高速鉄道により桃園県へ移動 13:00 ・国立陽明高級中学昼食会 15:00 ・国立陽明高級中学 調査	借上バス 桃園県 借上バス	台北市内
10月24日 (金)	10:00 ・台北市旅行商業同業公会 調査 13:30 台北松山空港→羽田空港 19:25 羽田空港→鳥取空港 20:05 羽田空港→米子鬼太郎空港	借上バス NH1186 ANA299 ANA389	

5 訪問先の概要

【平成26年10月21日(火)】

(1-1) 公益財団法人交流協会台北事務所(台北市)

【応対者】花木出副代表

公益財団法人交流協会台北事務所を訪問し、日台交流の現状、特に訪日台湾人の消費動向、地域別訪問率等について、説明を受け意見交換を行った。主な懇談内容は以下のとおり。

【主な懇談内容】

- ・ 日中国交正常化により日本と台湾との国交がなくなったが、経済、文化などの実務的な部分はしっかりサポートする必要があり、交流協会が組織されている。
- ・ 昨年の日台の人的往来は、日本人訪台者が前年比0.8%減の142万人に対し、台湾人訪日者が前年比50.8%増の221万人となっており、今年は日台あわせて400万人の往来を目標とし、その突破が確実な状況となっている。
- ・ 2011年のオープンスカイ協定により、今年7月実績で日台間で19路線、週あたり486便の定期航空路線が就航しているが、これは協定締結前の2倍にあたる。
- ・ 訪日台湾人の1人あたりの旅行支出は約11万2,000円で平均6泊していることから、旅行消費額は2,475億円にものぼる。
- ・ 特に台湾人は買い物需要が高く、今月から免税制度が改正され、さらなる日本国内における消費拡大が期待される。

- ・ 訪日台湾人の特徴として、女性が過半数を占め、20～30代が多くなっていることから、女性をターゲットとしたコンテンツの整備が不可欠。
- ・ 台湾では世代間育児など働きやすい環境が整えられており、女性が結婚、出産しても働くことが当たり前となっており、OLの個人旅行も多い。
- ・ 訪問地域別では北海道、関東、近畿、九州の割合が高く、中国地方は3.4%であるが、観光庁が重点地域と位置付けており、今後の拡大が期待される。
- ・ 提携・交流の動きも増えてきており、江ノ島電鉄と台湾鐵路管理局が観光連携協定を締結し、使用済み一日乗車券の相互無料引き換えをしたり、台湾ではヘルスツーリズムが人気があり、しまなみ海道自転車道と台湾日月潭サイクリングコースとの姉妹自転車道協定などの事例もでてきている。
- ・ 自治体間の姉妹（友好）都市交流は現在31あるが、その約半数が東日本大震災後に結ばれたもの。
- ・ 台湾人は自然体験を好むので、鳥取県で言えば砂丘を利用したアクティビティなども有効。また台湾ゆかりの先人たちの活躍を切り口にしたり、スポーツ、温泉、お祭りなど観光の目的になるのではないかな。
- ・ 現在でも相談いただいていることかと思うが、交流協会に相談いただければ助言させていただきます。



花木代表（中央）を囲んでの記念撮影

(1-2) 台湾政府外交部（亜東関係協会）歓迎夕食会（台北市）

〔応対者〕 羅坤燦 秘書長、陳志任 総務部長、蔡偉淦経済組組長、莊文一 薦任科員、翁淑婷薦任科員

台湾政府外交部（亜東関係協会）主催の歓迎夕食会を開催していただき、今後の日台の交流の推進などについて意見交換を行った。主な懇談内容は以下のとおり。

【主な懇談内容】

- ・ 台湾と日本の間には国交はないが、日台関係は良好な状態が続いている。
- ・ 梨の穂木から始まった鳥取県と台湾、特に台中市とは緊密な交流関係が続いている。
- ・ 台湾の国際交流員採用というのがその証明の一つ。
- ・ 私（羅坤燦秘書長）自身も1990年代、2000年代と2度大阪弁事処に勤務したが、その際、倉吉未来中心のオープニングなど何度か鳥取県を訪問させていただいている。
- ・ 台湾では11月29日投票で地方選挙が実施されるため、現在選挙一色となっている。
- ・ 昨年のオープンスカイ以来、人的往来が大幅な増加をしているが、台湾と日本の関係が鳥取県の交流からもっともっと盛んになることを希望している。



羅坤燦秘書長歓迎あいさつ

【平成26年10月22日（水）】

(2-1) 石岡区農会（台中市）

〔応対者〕 吳維章 理事長ほか関係職員

鳥取県から梨の穂木を輸出している石岡区農会を訪問し、意見交換を行った。意見交換終了後には、実際に梨園の見学をさせていただいた。主な意見交換の内容は以下のとおり。

【主な意見交換内容】

<石岡区農会>

- ・ 梨の穂木を輸出いただき、鳥取県には大変感謝している。
- ・ 梨の穂木の交流から20年近く経つが、農家だけでなく石岡区とも引き続き交流をよろしくお願したい。
- ・ 先月には、鳥取県を訪問させていただき、岸田農林水産部長を表敬させていただき、全農とつとりにも訪問させていただいたところ。
- ・ 鳥取県の新しい品種である新甘泉、秋甘泉は日本国内で人気があるとお聞きしており、もし可能であれば少量でも石岡区で穂木を輸入してテストで栽培してみたい。

- ・ 廃園になった梨園があるとうかがっているが、可能であれば全農や県が買い取って、梨の輸出用の穂木専用の園にすることを提案したい。
- ・ 接ぎ木の作業は約2反の梨園を3人で1日かかりで行っている。

<訪問団>

- ・ 以前もここに来させていただいて、いろいろ議論させていただいたし、昨年も鳥取県議会の訪問団を受け入れていただき感謝する。
- ・ 新甘泉、秋甘泉は鳥取県の園芸試験場が開発した新品種で、まだまだ日本国内でも鳥取県から外には穂木、苗木を出していない状況。
- ・ 石岡区への輸出については、全農、商社がやっておられると思う。全農、商社ともできるだけ要望に応えようとやっておられるが、30cmの穂木に10個のえき花芽がついていないといけないなど、だんだんと厳しい条件が付けられている現状だとお聞きしている。
- ・ 東日本大震災の原発事故以後、鳥取県が請け負う穂木の数量が多くなっているが、鳥取県では梨農家が少なくなり、豊水の栽培が新甘泉、秋甘泉、なつひめへと切り替わり、なかなか穂木採取が減少しつつあるのは事実。
- ・ そのようなことで、石岡区農会の御要望に応えられなくなっているのではないかと推測しているが、できるだけ石岡区農会の御要望に対応していただくよう、全農、梨生産者の方に連絡をとってみたい。
- ・ ただし、御要望の強い新甘泉、秋甘泉については県外にも出していないこともあり、国外に出すことは到底できないことは改めてお伝えする。
- ・ 提案であるが、収量を求められるのであれば、穂木の規格の基準を下げてもどうか。もし花芽が欲しいのであれば、接ぎ木の効率が悪いかもかもしれないが、多少花芽の確保もでき、単価も下がる。
- ・ 梨は1年ほったらかしにしていたらだめになるし、豊水、新興がまとまっている園があればいいが、単独の梨園は少ないのでむずかしい。

【石岡区農会の概要】

台湾の農会は非政府組織であり、台湾行政院農業委員会→全国農会→台中市農会→石岡区農会の順の上下関係となり、下部農会は上部農会の指導監督を受けている。

農会は会員によって組織され、石岡区農会の会員数は3,000人余り。主な農産品はぼんかんで栽培面積は約250ヘクタール、年間約4,500トン。



石岡区農会との意見交換の様子



接ぎ木された部分



梨園見学の様子

(2-2) 石岡区公所及び石岡区農会歓迎昼食会（台中市）

〔応対者〕（石岡区公所） 王偉誠 区長、李小玉 区長夫人ほか関係職員
（石岡区農会） 呉維章 理事長、張東海 総幹事ほか関係職員

石岡区公所及び石岡区農会主催の歓迎昼食会を開催していただき、懇談を行った。

主な懇談の内容は以下のとおり。

【主な懇談内容】

- ・ 昨年11月、三朝町制60周年記念式典に出席させていただき、反対に今年7月には三朝町長をはじめ子どもたちに石岡区にお越しいただき、学校交流、ホームステイなどを行い、深い友情で結ばれている。
- ・ 今後とも是非中身の濃い交流を続けていきたい。



呉理事長（左から2人目）、王区長（右から4人目）
を囲んでの記念撮影



王区長との記念品交換

(2-3) 台中市政府 (台中市)

〔対応者〕 徐中雄 副市長

台中市政府を訪問し、徐副市長と懇談を行った。主な懇談内容は以下のとおり

【主な懇談内容】

(徐副市長)

- ・ もともとは梨の穂木の輸入から台中県と鳥取県の交流が始まったが、農業だけでなく、民間同士の行き来も盛んで、合併し台中市となったあとも着実に交流が進んでいる。引き続きよい交流を進めていきたい。
- ・ ジャイアント社が春に大山へツーリングにいらっしゃったとお伺いしたが、これも新たな交流のきっかけだと思う。
- ・ 合併して大きな台中市になったので、観光、教育、文化、スポーツ交流などさらに大きな可能性がある。

(訪問団)

- ・ 長年にわたり、本県議会の訪問団を快く受け入れていただき本当に感謝している。
- ・ 鳥取県は人口も少なく小さい県であるが、観光立県を目指しており、チャーター便など鳥取県へのインバウンドに引き続き協力いただきたい。
- ・ 梨の穂木の輸出についても、鳥取県としても協力できることは協力していきたい。



徐中雄副市長との懇談



徐副市長（右から2人目）を囲んでの記念撮影

(2-4) 台中市議会 (台中市)

〔対応者〕 張世禎 秘書長ほか関係職員

台中市議会を訪問し、張秘書長と懇談を行った。主な懇談内容は以下のとおり。

【主な懇談内容】

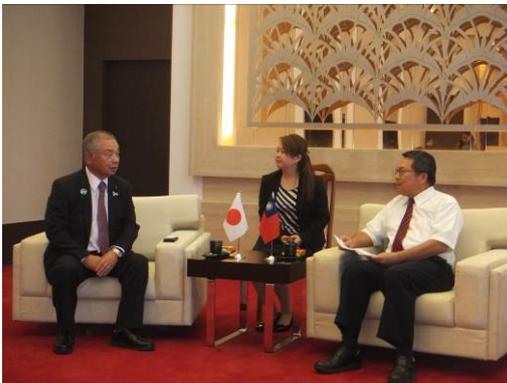
(張秘書長)

- ・ 来月に議員の選挙を控えているため、議長、副議長が不在で申し訳ない。
- ・ 鳥取県は台中県、そして合併したあとの台中市と文化交流、教育交流、農業交流など様々な交流を盛んにしていただいて、感謝している。
- ・ 両議会の交流も含めて、今後も経済交流など様々な交流が盛んになることを祈念している。

- ・ 昨年末には福島など東北地方を議員団が訪問し、東日本大震災の復興状況などを視察し、衝撃を受けた。来月の選挙で改選される議員に提案し、来年は是非鳥取県を訪問させていただきたいと思う。
- ・ 台中県と台中市が合併した2年後にこの庁舎に引っ越してきた。合併後すぐにこの庁舎に移りたかったが、大きな合併となり、当初予想していた議席数を大きく上回ったため、2年後の移転となった。現在63議席あり、議員研究室は1部屋25㎡となっている。

(訪問団)

- ・ 鳥取県には大変いいところがたくさんあるので、是非おいでいただく状況を作っていたければ、議会としてもうれしい。
- ・ 今後、台中市との交流がよりよい深い絆で結ばれることを期待している。
- ・ すばらしい庁舎、それぞれの議員に議員研究室がありびっくりした。



張世禎秘書長との懇談



張秘書長（右から2人目）を囲んでの記念撮影



台中市議会議場



議員研究室



台中市議会議事堂前

(2-5) 台中市議会歓迎夕食会 (台中市)

[応対者] 何敏誠 議員、張世禎秘書長ほか職員多数

台中市議会主催の歓迎夕食会を開催していただき、議員、秘書長のほか多くの職員と意見交換を行った。



歓迎夕食会の様子

【平成26年10月23日 (木)】

(3-1) ジャイアント本社工場 (台中市)

[応対者] 許立忠 特別助理兼發言人ほか関係職員

今春に関連会社のジャイアント旅行社が県西部へのサイクリングツアーを企画し、多くの職員が参加した世界的自転車メーカー・ジャイアント社を訪問し、ツアー参加者を含め意見交換を行った。主な意見交換内容は以下のとおり。

【主な意見交換内容】

(ジャイアント社)

- ・ デザイン、機能的にも優れた自転車を製造し、台湾、中国などではトップのシェアがあり、欧米では輸入メーカーでトップとなっている。
- ・ サポートしているオリンピック選手、チームが優秀な成績を収めることで、ジャイアントの名前が世界的に広がっている。
- ・ 女性職員が多く、世界で唯一女性専用の自転車を製造し、自転車やウェアのデザイン、展示の仕方なども女性向けに作っている。台湾では女性は消費力も高く、社会進出もしているため、女性をターゲットとして販売している。
- ・ 劉金標会長は今年80歳になるが、73歳のときに15日間をかけて台湾1周、75歳のときには北京-上海間のサイクリングを行ったことで、台湾、中国にサイクリングのブームをおこした。
- ・ 一昨年はしまなみ海道でサイクリングをし、現在、台湾人が日本へ行ってサイクリングをすることが流行っている。
- ・ ジャイアント旅行社のツアー、サービスは評判がよく、最近では日本、ヨーロッパ向けのツアーを企画している。
- ・ 現在、台北市と連携して駅から駅までなどの間を結ぶレンタサイクル事業「Uバイク」をしている。これがきっかけで市民が自転車に乗ることの楽しさを感じているようだ。ジャイアントは自転車を販売することだけではなく、サイクリングというライフスタイルを

推奨している。

- ・ 鳥取県へのツアーはとても素晴らしかった。自然豊かで、食べ物も美味しく、なにより皆さんとても親切で、人と人のつきあいがよく、いい経験をさせていただき、ジャイアント社としても鳥取へのサイクリングツアーを紹介していきたいと思う。
- ・ 実は、今月末のチャーター便就航の際に2度目のツアーを行う予定であったが、募集期間が短すぎて募集人員を満たすことができず、残念ながら催行することができなかったが、来年春には再びツアーを企画する予定にしているので、募集を頑張りたい。
- ・ 台湾のサイクリングをする人は、ただサイクリングをするだけでなく、景色がいいとか美食なども重要となっているので、鳥取県の雄大な自然と美味しい食べ物はぴったり。

(訪問団)

- ・ 自転車に関心はあり、競技自転車の人口を増やすため子どもたちに親しんでもらうようバンクコースを開放するなど努力しているが、こうしてサイクリングに親しめるような企画を多くしていただけてうれしく思う。
- ・ 日本ではバンクでの競技レースが盛んであるので、競技用車種については日本人も高い関心があると思うので、今後に期待している。
- ・ 皆さんが走られた国道431号は信号もたくさんあり、車が走っているそばで大変危険であったと思うが、その海岸側に自転車専用ロードが計画されつつある。鬼太郎ロードから左にずっと海を、前に大山を見ながらのとてもいい景色のロードになる。実現までにはまだ時間がかかるが、完成の折には是非来ていただきたい。
 - 自転車専用道路ができることはとても安全である。春の訪問では車道を走ったため、本当に危険であった。通勤ラッシュの時間帯で車の往来も多かった。専用道路がなければ大型車の通行で風圧などを受けるし、信号で車列が離れてしまう。
- ・ 台湾一周にはサイクリングロードが整備されているのか。
 - 郊外などの一部では専用道路があるが、市街地などは車道と兼用するところもある。
- ・ 自転車をとおして鳥取県に来ていただいたことを大変うれしく思う。
- ・ 鳥取県にサイクリングに来られた課題はあるか。
 - 唯一感じたのが交通アクセスが不便だったこと。直行便がないので、岡山空港、広島空港などを利用して送客しないといけないため距離を感じる。ジャイアント旅行社が利用している岡山便は今月下旬に運行休止となったため、今後はさらにアクセスが悪くなるのが心配。
- ・ 沖縄を経由すれば、スカイマークの那覇便で米子鬼太郎空港に来ることは可能だが。
 - サイクリングのツアーであれば荷物が多く、個人客はいいかもしれないが、ツアーとなるとスカイマークではお金がかかってしまう。
 - 前回岡山空港を利用した際、荷物検査のX線装置が小さく自転車を通すことができず、梱包した自転車の部品を分けてチェックする必要があり、とても印象が良くない。しまなみ海道に行く際に利用する広島空港は大きな装置であり、問題ない。サイクリングに力を入れるのであれば、米子鬼太郎空港にもそのような大型の装置があれば。(韓国のサイクリングツアーもこの件があるため、米子ソウル便は利用せず、DBSクルーズフェリーを使用している。)
- ・ 4月に来られたということで、季節的に雪と桜が同時に見られるので、一番いいときにいらっしやっていたいただいた。10月も紅葉があるし、台湾に負けないくらい果物もあるので、

是非また来ていただきたい。

- ・ 私の周りでもサイクリングが流行っていて、様々な自転車があるが、ジャイアント社はあこがれである。



ジャイアント社本社ショールーム



許立忠 特別助理兼發言人との意見交換



ツアー参加者との意見交換



ツアー参加者の皆さんが作成されたパネル

(3-2) 国立陽明高級中学昼食会 (桃園県)

〔応対者〕 (国立陽明高級中学) 游文聰 校長ほか教職員

(国立陽明高級中学家長会 (PTA)) 黄仲漢 会長、何良鴻 前会長ほか

(桃園県議会) 萬美齡 議員

(桃園県政府教育局) 呉林輝 局長ほか

(国立武陵高級中学) 林清波 校長 (前陽明高級中学校長)

国立陽明高級中学主催の昼食会を主催していただき、桃園県議会議員、桃園県政府教育局長にも出席いただき、意見交換を行った。主な意見交換内容は以下のとおり。

【主な意見交換内容】

(桃園県など)

- ・ 桃園県の学校ではアメリカ・ダラス州や韓国・仁川の学校と交流を盛んに行っているが、日本の学校も交流のパートナー。
- ・ 今後は高校だけでなく、小中学校との交流も盛んに進めていきたい。

(訪問団)

- ・ 陽明高級中学と米子東高が協定締結した当時の林校長は武陵高級中学に異動されたが、米子東高の依藤校長も今年の春に米子西高に異動した。新任の山根校長も今後一生懸命交流をしていこうということで、来年度予算を要求して是非訪問したいということであった。

(3-3) 国立陽明高級中学調査 (桃園県)

〔応対者〕 (国立陽明高級中学) 游文聰 校長ほか教職員

(国立陽明高級中学家長会 (PTA)) 黄仲漢 会長

今年2月に米子東高校と姉妹校協定を締結した国立陽明高級中学を訪問し、游校長、黄会長ほか教職員の皆さんと意見交換を行った。意見交換終了後、校内施設を行った。主な意見交換内容は以下のとおり。

【主な意見交換内容】

(游校長)

- ・ 私自身は日本を何度か訪問させていただいているが、本校の生徒も日本に対して親しみがある。
- ・ 本校は今年創立22年で、現在の生徒数は2,511名、各学年20クラスの全部で60クラスあり、各学年には1クラス美術専門のクラスがある。
- ・ 鳥取県では小中学校で30人クラスということをお聞きしたが、本校では基本が45人クラスで最高は52人のクラスもあり、日本と比べて大きいクラス編成となっている。
- ・ 台湾の教育局は世界で友達を作ろうという考え方で、積極的に日本への教育旅行を推奨していて、今年春には米子東高をはじめ、倉吉総合産業高校を訪問し、交流を深めたところ。
- ・ 桃園県は桃園国際空港があり台湾の出入口であり、桃園県の学校は国際交流を取り入れるべきと考え、米子東高校との交流は国際交流に一番いいベースとなっている。
- ・ 米子東高校とのさらなる交流に向けて、引き続き皆様方のお力添えをいただきたい。

- ・ 山根校長に短期の交換留学を12月にすることを打診したが、準備期間が短いということで、延期となってしまいとても残念に思っている。
- ・ 引き続き米子東高とはいろんな交流を進めていきたいと思う。

(訪問団)

- ・ 米子東高校はこれから2年間建替えの工事に入るとのことで、今後訪問いただくときは工事中でご不便をおかけするかもしれないが、完成したあとは素晴らしい学校に生まれ変わることとなる。
- ・ 米子東高は進学校ではあるが、文武両道でスポーツにも力を入れている。今年のインターハイではボートのシングルスカルで男子が全国制覇した。今度いらっしゃるときは、是非ボートにも乗っていただきたい。
- ・ 毎年陽明高級中学の生徒の皆さんをお迎えすると英語での交流となるが、陽明の生徒の英語の堪能さに米子東高の生徒はショックを受けて、米子東高校の生徒は交流するために英語を一生懸命勉強して、英語の教員は大変喜んでいようである。
- ・ このようなことで交流によって良い影響がたくさん出てきて、今後との両校の交流が進んで、ますますお互いに良い関係になればいいと思う。



游校長（前列左から3人目）、黄会長（同4人目）
を囲んでの記念撮影



米子東高校との姉妹校協定書



英語教室



図書室



全校生徒へのあいさつ

【平成26年10月24日（金）】

（4-1）台北市旅行商業同業公会調査（台北市）

〔応対者〕 丁萊 副理事長、黄美珠 理事、王尹成 理事、張莉梅 監事ほか

台北市旅行商業同業公会を訪問し、日本への観光誘客の現状と課題について意見交換を行った。主な意見交換内容は以下のとおり。

【主な意見交換内容】

（台北市旅行商業同業公会）

- ・ 日本と台湾の往来人数は、近年右肩上がりに増え続けている。特にオープンスカイになり、メリットのある日本の地域へは増便をしたり、チャーター便を出すこととしている。
- ・ 公会では市内にある約1,350社の加盟社へ情報発信するので、鳥取県の観光情報を是非お知らせいただきたい。鳥取県への観光誘客については、我々も全力でサポートしたい。
- ・ 台湾からの旅行者は移動距離があることを嫌うため、乗り継ぎではなく、なるべくすぐに目的の観光地に行くための直行便があることが望ましい。
- ・ 台湾人は雄大な自然や日本製のものが好きであるが、一番は買い物なので、観光ができてプラス買い物ができるのがよい。
- ・ 鳥取には2回ほど行かせていただきとてもよいところだが、アクセスが不便な印象がある。チャーター便を年に何回か運航されているとお聞きしたので、そのチャーター便を利用された方の口コミ、あるいは県として観光部分の宣伝に力を入れていただいたほうがよい。
- ・ 春に公会主催の旅行博覧会があり、業界向け、市民一般向けの説明会を開いているので、出展いただければPRのチャンスとなるのではないかと。
- ・ 直行便があれば、PRなどは必要がない状況。アクセスが便利であれば、観光客は増えていくが、乗り継ぎなど長距離移動しなければならないところは苦労している。
- ・ 鳥取については詳しくないが、鳥取の字には『鳥』があり、台湾では野鳥を鑑賞したり、写真撮るツアーもあり、例えば野鳥の鑑賞ができるようなところがあれば、そういうツアーの造成もできるのではないかと思う。
- ・ 普通のツアーコースではなく、先ほどの野鳥観察や花見、紅葉、温泉、美食、まつりなどの特別なコースを作ったほうがよい。

(訪問団)

- ・ 鳥取県は海と山が非常に近くカニなどの海の幸があるし、スキーもできる。また作者の出身地ということで、ゲゲゲの鬼太郎、名探偵コナンなどをまちおこしをしている。
- ・ お話を伺って、鳥取県の情報発信、PR不足があるのではないかと感じる。我々もしっかりプレゼンテーションできるよう心がけたい。



意見交換の様子



丁副理事長（前列中央）らを囲んで記念撮影